

ある探偵事件

寺田寅彦

青空文庫

数年前に「ボーヤ」と名づけた白毛の雄猫が病死してから以来しばらくわが家の縁側に猫というものの姿を見ない月日が流れた。先年、犬養内閣が成立したとおなじ日に一羽のローラーカナリヤが迷い込んで来たのを捕えて飼っているうち、ある朝ちよつとの不注意で逃がしてしまった。そのおなじ日の夕方帰宅して見ると茶の間の真中に一匹の真白な小猫が坐り込んですましてお化粧をしていた。家人に聞いてみると、どこからともなく入り込んで来て、そうして、すっかりわがもの顔に家中を歩き廻っているそうである。それが不思議なことには死んだボーヤの小さい時とほとんどそっくりでただ尻尾しっぽが長くてその尻尾に雉毛きじげの紋様があるだ

けの相違である。どこかの飼猫の子が捨てられたか迷つて来たかであるに相違ないが、とにかくそのままに居着いてしまつて「白」と命名された。珍しく鷹揚な猫で、ある日犬に追われて近所家の塀と塀との間に遁げ込んだまま、一日そこにしゃがんでいたのを、やつと捜し出して連れて来たこともあつた。スマラグド色の眼と石^{せきちく}竹色の唇をもつこの雄猫の風貌にはどこかエキゾチックな趣がある。

死んだ白猫の母は宅の飼猫で白に雉毛の斑点を多分にもつていたが、ことによると前の白猫と今度の「白」とは父親がおなじであるか、ことによると「白」が「ボーヤ」の子であるかもしれないと思われた。それについて思い当るのは、一と頃ときどき宅へ

忍び込んで来る猫の中に一匹のアンゴラ種らしい立派な白猫があった、それが、もしかすると「白」の父親か祖父ではないかと思われるのであった。

つい近ごろになってある新聞にいろいろなペットの話が連載されているうちに知名の某家の猫のことが出ていて、その三匹の猫の写真が掲載されていた。そのうちの二匹がどうも前述のいわゆるアンゴラに似ているように思われた。これだけでは何も問題にはならないが、しかしその某家と同姓の家が宅から二、三町のところにあるから、そこで一つの問題が成立したのである。その問題は型式的フオーマルには刑事探偵が偶たまには出くわす問題とおなじようなものかと思われた。

問題を分析するとつぎのようになる。

問題。(一) 宅の近所のA家は新聞所載のA家と同一か。(二)

同一ならばその家の猫Bと、宅の庭で見かけた猫Cと同一か。

(三) そうだとすれば宅の白猫DはそのBとC猫の血族か。

これに対して与えられた事実^{データ}与件は(1) Aという名前の一致。

ただし近所のA家に西洋猫がいるかどうかは不明。(2) 新聞の

写真のB猫とC猫との肖似。ただし記憶だけで他に実証なし。

(3) BCとDとの幾分の肖似。(4) 新聞記事によると、B猫

が不良で夜遊び昼遊びをして困るといふ飼主夫人の証言。これだ

けである。この(1)(2)(3)(4)いずれも当面の問題に

対しては実に貧弱なデータで、これだけからなんらの確からしい

結論も導き出せないことは科学者を待たずとも明白なことである。しかし、われわれの「人情」と「いわゆる常識」はこの(1)
(2) (3) (4) から(一) (二) (三) を肯定しようとする
強い誘惑を醸成する。

その後、出入りの魚屋の証言によって近所のA家にもやはり白い洋種の猫がいるという一つの新しい有力なデータを加えることは出来た。しかし、東京中で西洋猫を飼っているA姓の人が何人あるか不明であるから(一)の問題はやはり不明である。ただ、近所のA家の猫と宅の猫との血族関係に関しては幾分のプロバビリチが出来ていた訳である。

下手の探偵小説には(1) (2) (3) (4) だけから(一)

(二) (三) を誘導するようなのがありはしないか。おなじような論理の錯誤から実際の刑事事件について無実の罪が成立する恐れが万一ありはしないか。そんなことを考えさせられるのであった。

近ごろ、某大官が、十年前に、六百年昔の逆賊を弁護したことがあつたために、現職を辞するのやむなきに立ち至つたという事件が新聞紙上を賑わした。なるほど、十年前の甲某が今日の甲某と同一人だということについては確実な証人が無数にある。従つてこの問題と上述の「猫の場合」とは全然何の関係もない別種類の事柄である。何の関係もないことであるにもかかわらず、ふとした錯覚で何かしら関係があるような気がしたのは、たしかに自

分の頭の アペレーション 迷 誤 である。それで、これも不思議な錯覚の一例として後日の参考のために書添えておくこととする。

(昭和九年二月『大阪毎日新聞』)

青空文庫情報

底本：「寺田寅彦全集 第二巻」岩波書店

1997（平成9）年1月9日発行

入力：Nana ohbe

校正：川向直樹

2004年8月22日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ある探偵事件

寺田寅彦

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>